令和6年10月15日発行（毎月1回15日発行） ISSN 2436-7176

日本地質学会 *News*

Vol.27 No.10 October 2024

THE GEOLOGICAL SOCIETY OF JAPAN 1893

一般社団法人日本地質学会
The Geological Society of Japan

理 事

任期：2024 年 6 月 8 日から 2026 年総会

会長（代表理事） 山路　敦（京都大学）

副会長 杉田律子（科学警察研究所）
星　博幸（愛知教育大学）

常務理事 亀高正男（大日本ダイヤコンサルタント（株））
副常務理事 内野隆之（産業技術総合研究所）
執行理事 岩井雅夫（高知大学）
内尾優子（東京国立博物館）
大坪　誠（産業技術総合研究所）
尾上哲治（九州大学）
加藤猛士（川崎地質（株））
小宮　剛（東京大学）
坂口有人（山口大学）
高嶋礼詩（東北大学）
辻森　樹（東北大学）
細矢卓志（中央開発（株））
松田達生（工学気象研究所）
山口飛鳥（東京大学大気海洋研究所）
矢部　淳（国立科学博物館）

理　事 青矢睦月（徳島大学）
天野一男（東京大学空間情報科学研究センター）
磯﨑行雄（東京大学）
大友幸子（山形大学）
岡田　誠（茨城大学）
笠間友博（箱根町役場）
加藤　潔（駒澤大学）
香取拓馬（フォッサマグナミュージアム）
金丸龍夫（日本大学）
神谷奈々（京都大学）
川村紀子（海上保安庁海上保安大学校）
清川昌一（九州大学）
桑野太輔（京都大学）
小松原純子（産業技術総合研究所）
齋藤　眞（産業技術総合研究所）
佐々木和彦（佐々木技術士事務所）
澤　燦道（東北大学）
沢田　健（北海道大学）
沢田　輝（富山大学）
下岡和也（関西学院大学）
菅沼悠介（国立極地研究所）
高野　修（石油資源開発 (株) ）
田村嘉之（千葉県環境財団）
中澤　努（産業技術総合研究所）
西　弘嗣（福井県立大学）
野田　篤（産業技術総合研究所）
広瀬　亘（北海道立総合研究機構）
松田博貴（熊本大学）
道林克禎（名古屋大学）
矢島道子（東京都立大学）
山本啓司（鹿児島大学）
和田穣隆（奈良教育大学）

監 事

任期：2024 年 6 月 8 日から 2028 年総会

岩部良子（応用地質（株））
山本正司（山本司法書士事務所）

一般社団法人日本地質学会
〒101-0032　東京都千代田区岩本町 2-8-15　井桁ビル
電話　03-5823-1150　FAX　03-5823-1156（振替口座　00140-8-28067）
e-mail: main@geosociety.jp　ホームページ http://geosociety.jp

日本地質学会*News*

Vol.27 No.10 October 2024

The Geological Society of Japan *News*
一般社団法人日本地質学会
〒101－0032　東京都千代田区岩本町２－８－15　井桁ビル ６F
編集委員長　松田達生
TEL　03－5823－1150　FAX　03－5823－1156
main@geosociety.jp（庶務一般）
journal@geosociety.jp（編集）
http://www.geosociety.jp

Contents

「地質学雑誌投稿編集出版規則」の改正と「日本地質学会学術大会における巡検案内書刊行までの手順に関する細則」の制定について……2

地質学雑誌電子版投稿編集出版規則【改正箇所】/細則6　日本地質学会学術大会における巡検案内書刊行までの手順に関する細則

各賞・助成……4
山田科学振興財団2025年度研究援助候補者推薦依頼/第66回藤原賞受賞候補者推薦依頼/第4回 羽ばたく女性研究者賞（マリア・スクウォドフスカ＝キュリー賞）公募

公募……4
東北大学大学院理学研究科地学専攻・助教の公募/早稲田大学教育・総合科学学術院（地球系）＜技術職＞常勤嘱託職員募集

案内……5
海と地球のシンポジウム2024

紹介……6
日本列島はすごい–水・森林・黄金を生んだ大地–伊藤　孝著（川幡穂高）

表紙紹介……6
アイスランド，スンドゥフヌークスギガル（Sundhnuksgigar）付近で発生した割れ目噴火（金丸龍夫ほか）

博物館だより……7
プライム企画展　東北の自然史大図鑑―The Great Natural History of Tohoku―

訃報……7

博物館・ジオパークで地球を学ぼう！（34）……8
福島県立博物館：バラエティー豊かな福島県の地質（猪瀬弘瑛）

CALENDAR……10

支部コーナー……11
関東支部：清澄フィールドキャンプ実施報告

地質学雑誌：新しい論文が公開されています……12

学部学生・院生の方へ【在会会員に限る】2025年度からの学生会費の申請について……13

2025年度の会費払い込みについて……14

巻末　会費口座振替依頼書

表３　入会申込書

2025年度学会各賞候補者募集

応募締切：12月2日（月）必着

詳しくは，ニュース誌9月号もしくは，学会HPを参照してください．

印刷・製本：日本印刷株式会社　東京都豊島区東池袋4－41－24

「地質学雑誌投稿編集出版規則」の改正と「日本地質学会学術大会における巡検案内書刊行までの手順に関する細則」の制定について

今回，地質学雑誌投稿編集出版規則（以下，編集規則といいます）を改正することとしました．改正点は大きく二つに分けることができます．

一点目は編集規則A．投稿原稿の要件1にある著者が故人である場合の表記に関する部分です．故人である著者の表記の仕方を変更します．

二点目はカテゴリの新設および新設されたカテゴリに関する細則の新設です．日本地質学会の学術大会の巡検案内書は2006年度以降，査読を経て地質学雑誌に掲載されてきました．しかし，その位置づけが明確でなかったことから，新たなカテゴリとして「巡検案内」を設けることにしました．編集規則に新設する「巡検案内」は，学術大会だけでなく支部行事や学生巡検などの様々な巡検案内も対象としており，掲載・アーカイブされることによって誰でも活用できるようになります．

学術大会の巡検の巡検案内書は，原則として編集規則の巡検案内に関する規則に従って作成していただくこととなりますが，巡検が実施されるまでに発行される必要があることから，作成の手引きとして「日本地質学会学術大会における巡検案内書刊行までの手順に関する細則」を制定します．これは，以下の点を重視し，場合によっては編集規則に優先させることができる事項を明記したものです．

(1) 遅滞なく年会の巡検案内書を発行できるようにする
(2) (1) を達成するために不可欠な作業の円滑さを担保する
(3) 地質学雑誌として必要な最低限の手続きを確保する
(4) 巡検を確実に実施するために，巡検案内書の編集においてLOCや学会との連携を行う
(5) 学術大会の巡検案内書編集委員会の貢献を示す

これにより，学術大会の巡検案内書が円滑に編集・発行されるようになるとともに，著者だけでなく巡検案内書の編集集委員の貢献も記録されるようになります．

最後になりますが，巡検案内書ワーキンググループのメンバーとして本議論に参加していただいた次の方々に感謝いたします．（敬称略・五十音順）

亀井淳志（島根大学），亀尾浩司（千葉大学），小松俊文（熊本大学），里口保文（滋賀県立琵琶湖博物館），高嶋礼詩（東北大学），松田達生（工学気象研究所），山﨑　誠（秋田大学）

2024年9月30日
地質学雑誌編集委員会　委員長　小宮　剛
巡検案内書WG担当　杉田律子

地質学雑誌電子版投稿編集出版規則【改正箇所】

地質学雑誌への投稿およびその編集・出版については，本規則および別に定める細則による．

A．投稿原稿の要件

1　本誌への投稿原稿で著者として記載されるためには，次の 1）～5）の要件をすべて満たすことを要する．
ただし，著者が故人の場合には，3）の要件を満たさずとも良いが，~~著者名にダガー記号（†）を添え，~~脚注にその著者が死去した旨と死去年を記載する．

B．投稿原稿の提出と受付処理および保管

2　投稿原稿は，日本語もしくは英語で作成し，以下の定めに従い電子投稿・査読システムを通じて日本地質学会事務局（以下「事務局」という）に提出する~~（年会の際の巡検案内書については，巡検案内書編集委員会宛とする）~~．すなわち，下記の URL 画面の指示にしたがい必要事項を入力したうえで，指定された形式の電子ファイル（本文，図表）をアップロードする．また，L．に定める保証書に必要な署名をして提出する．
http://mc.manuscriptcentral.com/geosoc

C．地質学雑誌の内容

1　広い意味の地質学に関連する以下の論文とする．
10）巡検案内（Field Guide）：巡検の案内．見学内容の地質学的背景と各地点の見学内容の記述を中心とすること．ただし，地質学会学術大会の巡検については，別に定める日本地質学会学術大会における巡検案内書刊行までの手順に関する細則にしたがうこと．
11）その他，編集委員会が依頼し，または適当と認めたもの．

2　著者の申し出があり，かつ~~理事会において~~別に定める地質学雑誌データファイル掲載細則に基づいて編集委員会が適当と判断する場合，C．1．の論文のデータの一部を，その出版と同時に，地質学雑誌の DOI 付きデータファイルとして J-STAGE Data のウェブサイトで公開することができる．
~~3．1．および 2．の他，巡検案内書および編集委員会が依頼しまたは適当と認めた原稿．~~

D．投稿原稿の審査と採否

3　編集委員会は，受付処理をした討論以外の投稿原稿について査読の要否を判断する．査読が不要と判断された投稿原稿は掲載不可とする（以下「不受理」という）．査読が必要と判断された投稿原稿は会員または非会員に査読を依頼する．査読者数は，論説・総説・講座・巡検案内は 2 名以上，レター・ノート・報告・フォト・用語解説は 1 名以上とする．

H．日本語の原稿（投稿原稿および受理原稿）の作成方法

1　原稿の構成は，以下のとおりとする．
2）論説および総説には日本語と英語の要旨（abstract）をつける．他の言語を認めない．レター・報告・ノートには英語の要旨をつける．講座には要旨をつけない．巡検案内には日本語の概要をつける．要旨に用いる言語は，日本語と英語のみとする．日本語要旨の長さは 400 字以内とし，英語要旨の長さは，論説および総説は原則 300 語以内，レ

ター・報告・ノートは原則 200 語以内とする．英語要旨の原稿の書き方は，I．に従う．日本語要旨および英語要旨の原稿はそれぞれ本文と別のページにする．

J．出版論文

1　出版論文のページ数の上限（著者プロフィールを含む）を原則として次のとおりとする．ただし，以下の1）～4）に従う．

論説：　出版時 16 ページ
レター：　〃　6 ページ
総説：　〃　16 ページ
ノート：　〃　6 ページ
報告：　〃　10 ページ
講座：　〃　16 ページ（1回分）
フォト：　〃　2 ページ
討論：　〃　4 ページ
用語解説：〃　1 ページ（1項目）
巡検案内：〃　16 ページ

1）論説・レター・総説・ノート・報告および巡検案内については，編集委員会が適当と認めた場合，原稿の長さを超過することができる．ただし，巡検案内を除き，規定のページ数を超過する分については，出版印刷費用等に関する細則に定められた負担金を徴収する．

~~5. 巡検案内書のページ数上限に関しては，編集委員会において別途定める~~

附則・本規則の変更は，理事会の承認を得る．
・本規則は，2021年9月11日から施行する
・2022年4月9日　一部改正
・2022年12月10日　一部改正
・2024年8月31日　一部改正

細則 3

出版印刷費用等に関する細則

2　超過ページに対する著者負担は，1ページにつき 16,000 円とする．ただし，巡検案内については著者負担を求めない．

細則6　日本地質学会学術大会における巡検案内書刊行までの手順に関する細則

1　日本地質学会学術大会における巡検案内書出版までの手順に関する細則は，日本地質学会が実施する学術大会（以下「学術大会」という）に伴う巡検に必要な巡検案内を円滑にかつ遅滞なく出版することを第一の目的とし，またその巡検案内を年会終了後も活用するために巡検案内書として編纂するための手順を定める．また，その目的達成のために巡検の案内者等は，担当する巡検の案内を年会までに出版できるよう努めなければならない．

2　巡検案内書の企画は，学術大会の巡検企画が理事会で承認されたときに承認されたものとみなし，学術大会の巡検担当者は速やかに「巡検案内書企画書」を編集委員会に提出（電子メールによる）する．

「巡検案内書企画書」には最低限以下の項目について記述するものとする．

(1) 名称（例えば、日本地質学会第○○年学術大会巡検案内書）
(2) 巡検案内書編集委員会を構成する巡検案内書代表世話人（巡検案内書編集委員長）および編集担当候補者の氏名および連絡先（所属先，電話，e-mail 等）
(3) 各巡検コースの名称、巡検案内の著者と編集担当候補者の氏名

編集委員会は，企画書に必要事項が記載されていることを確認後，巡検案内書編集委員長に正式に企画の開始を連絡し，巡検案内の著者は，地質学雑誌電子版投稿編集出版規則に従って，構成論文の原稿（以下「論文」という）を電子投稿・査読システムにより投稿する．

3　巡検案内書編集委員長および巡検案内書編集委員長が任命した巡検案内書編集委員は，客員編集委員となり巡検案内書編集委員会を構成し，巡検案内書の編集を担当することができる．巡検案内書編集委員会と学術大会の巡検担当者は互いに連絡を取り，円滑に編集作業が行えるようにする．巡検案内書編集委員会とその委員の任期は，当該巡検案内書のすべての論文が出版されるまでとする．

4　巡検案内書編集委員会は，査読者を決め地質学雑誌編集委員会に報告する．査読者には，論文の原稿とともに「巡検案内書申込書」を送付し，巡検案内書の中の論文であることや，全体の構成を知らせる．論文の受理は巡検案内書編集委員会が判断し、編集委員会の承認をもって決定する．論文受理の著者への通知は，巡検案内書編集委員長に委任することができる．

5　論文の著者および査読者は，巡検案内書編集委員会が定めた期日を順守し，巡検案内の出版に後れを生じさせてはならない．やむを得ない事情がある場合は速やかに担当編集者に連絡し，編集担当者は必要に応じて編集委員会等と対策を図る．

6　年会の巡検案内は，最終校正後，すみやかにJ-STAGEの所定のURL に書誌情報および論文のPDF ファイルとともに出版される．論文が全てJ-STAGEに掲載された時点で，巡検案内書としてインターネット上でバーチャルイシュー（前文・巡検の注意事項，構成論文の著者，題名，書誌情報URL等を１つのページにまとめたもの）を作成し，日本地質学会またはJ-STAGEのウェブサイト上で公開する．

7　本細則に記載されていない事項については，地質学雑誌電子版投稿編集出版規則に従うこととする．ただし，巡検案内書編集委員会から，著者および査読者に別途文書（電子メールを含む）による依頼や指示等があった場合は，当該論文に限り本細則や予備規則に優先するものとして扱うことができる．また，本細則第１項の目的を妨げるような不測の事態が発生した場合には，会長の承認の下，当該年会の巡検案内書に限り柔軟に対応することができる．

8　上記手順については，必要に応じて修正を行うものとする．

附則
・本規則の変更は，理事会の承認を得る．
・本細則は，2024年8月31日から施行する．

各賞・研究助成

日本地質学会に寄せられた候補者の募集・推薦依頼等をご案内致します.

山田科学振興財団2025年度 研究援助候補者推薦依頼

1. 研究援助の趣旨
1）萌芽的・独創的研究
2）新規研究グループで実施される研究
3）学際性，国際性の観点からみて優れた研究
※評価が定着して研究資金が得やすいものより，萌芽的で将来の発展が期待され基礎研究を重視します.
※多様な視点や発想を取り入れた研究活動を実践する創造力ある研究者を積極的に支援するため，本財団は，女性の活躍はもちろんのこと，一人一人の多様性を尊重します.
2. 援助額は1件当たり150～300万円，援助規模は総額4,000万円，採択件数18件程度を予定しています．また，女性研究者3名以上の採択を見込んでいます.
3. 援助金を給与にあてることはできません．特に財団が指定した場合を除き，給与以外の使途は自由です.
4. 援助金の使用期間は，採択日から翌年度の3月末日までとします.
応募締切：2025年2月28日（金）
※学会推薦です（地質学会の推薦枠：3件）．推薦を希望される方は，2025年2月3日までに応募書類を整えて，学会までご連絡ください.
※このほか，「女性活躍支援枠」，「チャレンジ支援枠」があります（学会推薦不要）.

問い合わせ先：公益財団法人　山田科学振興財団
〒544-8666　大阪市生野区巽西1-8-1
Phone: 06-6758-3745　Fax: 06-6758-4811
E-mail: office@yamadazaidan.jp
URL: https://yamadazaidan.jp/
詳しくは，
https://yamadazaidan.jp/requirements/grant-bosyu_kenkyu/

第66回藤原賞 受賞候補者推薦依頼

推薦の対象：自然科学分野に属するものとします.
受賞候補者：日本の国籍があり，且つ日本在住の方であれば，ほかに賞を受けられた方でも，また以前に推薦された方でも結構です.
＊受賞候補者には必ず所属組織・研究機関の長又は相当する学識者の推薦が必要です.
（受賞候補者は原則として受賞対象題目1件につき1人とします.）
推薦要項書：必要事項を記入してお送り下さい．なお参考資料として，受賞候補者の受賞対象題目と関係する主要論文テーマ（10 篇以内）のリストおよび主要論文（3 篇以内）をPDF化して送信して下さい．送信頂くPDFファイルは，①推薦要項書と主要論文テーマリスト，②主要論文1，③主要論文2，④主要論文3，に分けて下さい.
選考：5つの分科（①数学・物理，②化学，③工学，④生物・農学，⑤医学）に分けて行いますので，推薦要項書1ページ上段の希望分科欄に推薦者が考えた希望の分科を○印で囲んでください．ただし，決定は選考委員会が行います.
受賞者の決定：2025年5月中旬とし，贈呈式は2025年6月17日に行います.
提出締切日：2024年12月15日（日）（学会締切：11月29日（金））
推薦要項書送り先：〒104-0061 東京都中央区銀座3丁目7番12号
公益財団法人　藤原科学財団 TEL（03）3561-7736
FAX（03）3561-7860
募集要項書等，詳しくは，http://www.fujizai.or.jp

第4回 羽ばたく女性研究者賞（マリア・スクウォドフスカ＝キュリー賞）公募

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）と駐日ポーランド共和国大使館は，日本の女性研究者のより一層の活躍推進に貢献することを目的に，国際的に活躍が期待される若手女性研究者を表彰します．多くのご応募をお待ちしております.
対象：2025年4月1日時点で博士学位取得後５年程度まで※の女性研究者（ポスドクを含む），大学院生（博士後期課程），およびこれらに相当する者
※ライフイベントなどによる研究活動休止期間を勘案する
科学技術に関連する幅広い研究分野を対象
国籍：日本，居所：不問
○最優秀賞：１名
賞金：100万円
副賞：ポーランドへの渡航・研究機関等を訪問するための滞在費を支弁（滞在は２週間程度．渡航は2025年秋を想定）
奨励賞：２名
賞金：各50万円
締切：2024年12月10日（火）日本時間正午
詳しくは，https://www.jst.go.jp/diversity/researcher/mscaward/
問い合わせ先：
国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）
人財部　ダイバーシティ推進室
E-mail: diversity@jst.go.jp

公募

教員・職員公募等の求人ニュース原稿につきましては，採用結果をお知らせいただけますようお願い致します.

東北大学大学院理学研究科 地学専攻・助教の公募

募集人員　助教1名
所属講座　地学専攻地圏進化学講座
募集分野　地質学
地質試料の解析および実験に基づき，岩石圏の水流体が関与する地質現象や，地球や他の惑星の変動・進化史などに関する研究・教育に取り組める方．地学専攻の他の教員と協力し，諸業務や実験装置の維持管理に積極的に尽力いただける方．地学専攻が実施している博士学位プログラムや，東北大学が推進する諸事業に積極的に関わっていただける方が望ましい.
担当科目 東北大学全学教育（自然科学総合実験を含む）や理学部地球科学系の専門実習・演習（地質調査法実習を含む）に加え，地圏環境科学科の各分野と協力し，フィールド調査から最先端の極微細試料分析までをカバーしたマルチスケールの実験・実習など.
応募資格 博士の学位を有する者で応募時において学位取得後8年を経過していない者．または着任時までに学位取得見込みの者．ただし，ライフイベント（学位取得後，育児休業を数年とっていた場合など）は考慮する．日本語を母国語とする者もしくは教育・研究指導のために十分な日本語能力を有する者.
着任予定　令和7年4月1日
任期　なし
応募締切日　令和6年12月16日（月）必着
書類送付先・照会先
〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉6-3
東北大学大学院理学研究科地学専攻，教授
武藤 潤
電 話：022-795-6627，e-mail：muto@tohoku.ac.jp
応募書類等公募の詳細は下記を参照してください.
https://www.sci.tohoku.ac.jp/kobo_20241216.pdf

早稲田大学教育・総合科学学術院（地球系）＜技術職＞常勤嘱託職員募集

業務内容：早稲田大学教育・総合科学学術院おいて，以下の業務に従事する．
1. 岩石薄片試料の作製・指導に関する業務
2. 地球系教育実験の指導・運営に関する業務
3. 地球系フィールドワークに関する支援協力業務
4. 地球系卒・修論の実験指導に関する業務
5. 地球系施設・設備に関する管理・運営業務
6. 地球系教育・研究実験に関する安全管理業務
7. 上記担当業務における日次の進捗管理
8. 上記担当業務における他業務担当者・関連箇所との恒常的な連絡調整
9. その他，事務所運営に関する一般業務および職場運営上不可欠な臨時的業務

募集人数：1名
採用日：2024年12月1日（応相談）
契約期間：採用予定日から2025年9月30日まで（契約更新あり・最長2029年9月30日まで）
応募資格：次の条件を満たす方
1. 理工系大学卒業相当の学歴を有する方
2. 岩石薄片試料作製の実務経験を有する方
3. 岩石カッター，研磨機，偏光顕微鏡の操作および安全管理に精通している方
4. 分析装置の操作に興味をお持ちの方が望ましい（当方で指導いたします）※対象機器：電子プローブマイクロアナライザー（EPMA(WDX)），走査電子顕微鏡(SEM)，X線回折装置(XRD)，蛍光X線装置(XRF)など
5. 過去に本学嘱託職員として就業経験のある場合は，採用日時点で本学退職後6ヵ月以上経過し，かつ教育・総合科学学術院の就業経験がない方（応募時点で退職後6ヶ月以上経過している必要はありません．）

勤務地：早稲田大学教育・総合科学学術院（東京都新宿区西早稲田1-6-1）
締切日：随時
問合せ先（募集案件内容に関すること）：
早稲田大学人事部人事課
E-mail：syokutaku@list.waseda.jp
応募書類等そのほか公募の詳細は下記を参照してください．
https://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekJorDetail?id=D124100228

ご案内

本会以外の学会および研究会・委員会からのご案内を掲載します．

海と地球のシンポジウム2024

東京大学大気海洋研究所（AORI）と海洋研究開発機構（JAMSTEC）は，JAMSTECが運用する研究船等を利用し，全国の研究者・技術者・学生等により行われた研究や技術開発の成果報告会として，「海と地球のシンポジウム2024」を開催いたします．
本シンポジウムは，研究船等を利用する多様な分野における最近の成果が発表され，分野横断的な意見交換などにより新たな研究・技術開発のきっかけを得る機会となることを目指しています．ぜひご参加くださいますよう，お願い申し上げます．
研究船等を利用された皆様には積極的に成果をご発表いただきたく，どうぞよろしくお願いいたします．
主催：東京大学大気海洋研究所・海洋研究開発機構
開催日：2025年3月12日（水）～13日（木）
※懇親会を3/12 夕方に予定しています．
開催方法：口頭発表，ポスター発表ともに実会場にて実施
会場：東京大学弥生キャンパス 弥生講堂（東京都文京区弥生）
発表課題募集〆切：2024年12月13日（金）
参加登録（無料）〆切：2024年12月13日（金）
懇親会参加申込締切：2025年2月21日（金）
また，開催5年目を記念して，フォトコンテストを開催いたします．
詳しくは，https://www.jamstec.go.jp/j/pr-event/ocean-and-earth2024/
問い合わせ先：海と地球のシンポジウム実行委員会
ocean.and.earth.symposium@jamstec.go.jp

紹　介

日本列島はすごい
–水・森林・黄金を生んだ大地–
（中公新書）

伊藤　孝著

中央公論新社，2024年4月25日発売，
中公eブックス，新書，240ページ，
ISBN 978-4121028006，定価：本体920円＋税

日本列島は地震や火山などの地質災害，台風や活発な前線活動などのような気象災害が多発するという特徴がある．一方で，昔は世界的レベルで金や銀の生産量を誇れるほど鉱物資源に恵まれてきた．この書は，著者が地学教育の第一人者である特徴を活かして，水，火，塩，森，鉄，黄金が織りなす日本列島史をさまざまな観点から解説している優れた本と評価できる．

本書の序章は「日本列島の見方」で，一般の人向けに地球システムの概説をしている．第1章と第2章では，「14,000の島々の連なり」というタイトルで日本列島の特徴をとりあげ，「日本列島の成り立ち」の中核を成す日本列島と日本海の形成を丁寧に解説している．特に，芭蕉が『奥の細道』でたどったコースと東北地方の形成史は，文化と地質を組み合わせた新しい観点からの記述で大変優れていると感じた．

第3章の「火山の列島―お国柄を決めるもう一つの水」では，日本列島の温暖湿潤な気候をもたらす水にターゲットを置いている．科学的なキーワードは安定同位体比であるが，これを使って天水とマグマ水の違いを易しく説明している．それらの特徴を基に，私たちが楽しむ温泉の水のほとんどは天水に由来し，比較的低温であること，そして海水がプレート運動に伴い地下地球深部までもたらされると，火山形成に重要な役割を果たすことが分かりやすくに解説されている．

第4章の「大陸の東，大洋の西―湿った列島」では，アジアモンスーンと黒潮や対馬海流がもたらす日本列島の気象・気候への影響がテーマとなっている．これには，最近日本列島が経験している猛暑とも関連した重要な事項が含まれている．すなわち，地球温暖化に伴い，夏季の日本列島周辺の海水温が熱帯域に匹敵するほど高温となること，日本列島に猛暑をもたらす二つの高気圧の内の一つがアジア大陸のチベット高原に起源があること，海水温の上昇により対馬海流からの蒸発量が増加して豪雪となることは「日本列島がアジアに位置している」ということを印象づける．

第5章「塩の道―列島の調味料」では，大規模岩塩を形成した地中海塩分危機や日本の塩田などを，第6章「森林・石炭・石油―列島の燃焼」では，日本列島に産した化石燃料などを取り上げている．昔，小学校の理科で行った集気瓶によるローソクの燃焼実験はとても面白かった．集気瓶の中に火のついたローソクをいれると，ローソクの火は消えてしまう．しかし，集気瓶には濃度が16%と酸素は十分に残っている．酸素濃度の低下によりローソクの炎の温度を維持できなくなるため，ローソクの火は消えてしまうのである．小学校の頃に一度は理科で体験した実験内容を手がかりに，地球の酸素濃度の変遷に話題を転じるあたりは，著者が地学教育の第一人者であることを感じさせる．

第7章「黄金の日々―列島の錬金術」では，日本人の金との出会いと黄金の国「ジパング」と呼ばれた列島での金の産出に関して書かれており，興味を誘う内容である．東大寺の大仏は青銅でできているが，永遠に錆びないよう金メッキをすることとなった．しかし，造営を決定した当時，日本に金は産出しなかった．大仏の開眼供養の頃，宮城県の涌谷で，日本で初めて砂金が発見され，日本は黄金の国「ジパング」への道を歩んだ．近年「金」価格の高騰もあり，日本における金鉱床の形成プロセスに関する説明は一般の方々にも有益だと確信している．

最後になるが，本書を読むと，私たちの生活の身近な事柄が日本列島の地学に密接に関係していることが理解できる．一般の方々に，私たち地質の研究者の知識を語る時には非常に参考になる良本と言える．本書の一読を強くお勧めする次第である．

（川幡穂高）

表紙紹介

アイスランド，スンドゥフヌークスギガル（Sundhnuksgigar）付近で発生した割れ目噴火（現地時間2024年8月22日）
Fissure eruption on Sundhnuksgigar, Iceland (Aug. 22nd, 2024, UTC)

金丸龍夫（日本大学）・古川邦之（愛知大学）・新村太郎（熊本学園大学）・齋藤武士（信州大学）

アイスランドのレイキャネス半島では，2019年末から活発なマグマの活動に伴う地殻変動や噴火が観測されている．このうちスンドゥフヌークスギガル（Sundhnuksgigar）付近において，2024年8月22日21時半前（現地時間）に本写真投稿時点での最新の噴火が起きた．筆者らは，偶然にも当夜にケプラヴィーク（Keflavik）市街地に宿泊しており，21時14分には現地警察より，グリンダビーク(Grindavik)の町から離れ，警察の指示に従うよう依頼するショートメッセージを受信した．本写真は，今回の割れ目火口から北方へ15 kmほど離れたケプラヴィーク市街地から22時40分頃に撮影したものである．割れ目噴火は観察中にも北東へ拡大するのが確認できた．延々と続く溶岩原の先で発生した割れ目噴火により空は真紅に染められていた．

博物館だより

山形県立博物館

プライム企画展　東北の自然史大図鑑
—The Great Natural History of Tohoku—

山形県立博物館は，令和6年（2024年）で開館から54年目を迎えました．開館から半世紀以上が経ち，東北地方の自然史に関する新たな発見や様々な知見を集積してきました．そこで，「県の石」をテーマとして，山形県を中心とした東北地方の5億年の自然史を紹介する企画展を開催します．山形県の県の石として，山寺の景観を作ったデイサイト凝灰岩，マグマから生まれたそろばん玉石（玉髄），世界に1体だけのヤマガタダイカイギュウが認定されています．

本企画展では，東北地方6県の「県の石」が一堂に会し，日本列島が生まれる前から現在までの5億年の遥かな地球の歴史をご覧いただけます．

【会期】2024年9月28日（土）～12月15日（日）
【開場時間】9:00～16:30（最終入館16:00）
【休館日】月曜日　※10月14日（月・祝），11月4日（月・祝）開館，翌火曜日は休館
【会場】山形県立博物館第3展示室
【主催】山形県立博物館
【協力】青森県立郷土館，秋田県立博物館，岩手県立博物館，東北大学総合学術博物館，福島県立博物館，山形大学附属博物館，国立科学博物館，横浜国立大学，本源寺，道の駅「月山」月山あさひ博物村，山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館
【後援】日本地質学会，日本古生物学会，山形応用地質研究会，化石研究会，大江町教育委員会
【入館料】大人300円（20名以上の団体150円），学生150円（20名以上の団体70円）学生には専門学校生等を含む．高校生以下は無料．障がい者とその付添いの方は無料．
【主な展示資料】天童隕石（レプリカ）（天童市役所蔵），大富隕石（本源寺蔵），Nipponites mirabilis（国立科学博物館蔵），フタバスズキリュウ頭骨（レプリカ）（国立科学博物館蔵・福島県立博物館蔵），ウタツギョリュウ（レプリカ）（東北大学総合学術博物館蔵），シルル紀のサンゴ化石群（岩手県立博物館蔵），ヤマガタダイカイギュウ（当館蔵），アオモリムカシクジラウオ（青森県立郷土館），ナウマンヤマモモ（秋田県立博物館蔵），パレオパラドキシア全身骨格（レプリカ）（横浜国立大学蔵），須川埋没林の化石木（当館蔵），押出遺跡出土石器（うきたむ風土記の丘考古資料館蔵），八谷鉱山の金銀鉱石（当館蔵），由利原油田の軽質油（秋田県立博物館蔵）など約700点

【関連イベント】
（1）記念講演会
①10月12日（土）
「東北で見つかる恐竜時代の爬虫類」講師：佐藤たまき氏（神奈川大学理学部・大学院理学研究科教授）
②11月9日（土）
「北米大陸の地層や化石と地球の歴史」講師：間嶋隆一氏（放送大学神奈川学習センター客員教授・横浜国立大学名誉教授）
③11月23日（土・祝）
「貝化石から探る東北の大地の歴史」講師：中島　礼氏（産業技術総合研究所地質調査総合センター統括研究主幹・山形大学災害環境科学研究ユニット研究員）

（2）記念イベント
①10月27日（日）
東北文化の日「地層観察および化石発掘体験」協力：朝日少年自然の家
②11月3日（日）文化の日
「君も古生物学者！　本物の化石でクリーニング体験」,「ゴールデンカムロ　山形黄金色の鉱物編」
③12月7日（土）
「発掘体験！石の中から秘密を発見しよう！」
（3）担当学芸員の展示解説会（各回13：30～14：00）
①9月28日（土）②10月14日（月・祝）③10月26日（土）④11月3日（日・祝）⑤11月16日（土）⑥12月7日（土）
（4）関連博物館行事
①10月26日（土）
東北文化の日　ナイトミュージアム「ハロウィンナイト」

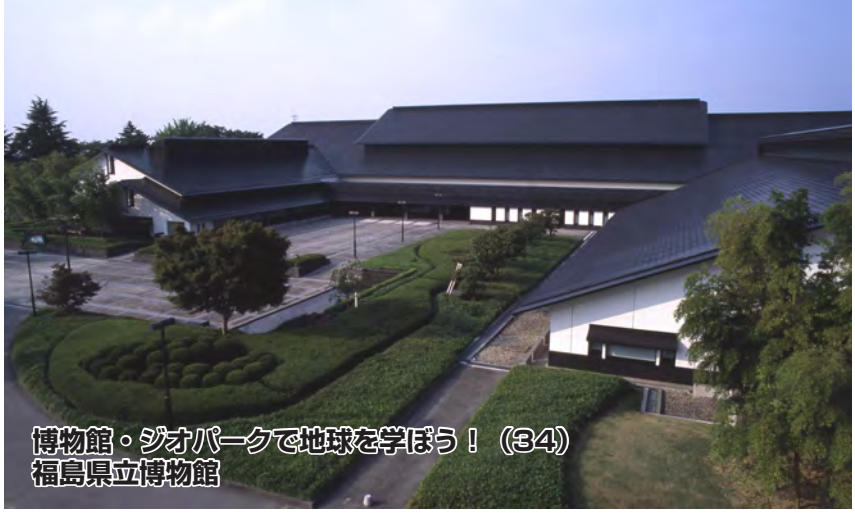
【お問い合わせ】山形県立博物館
〒990-0826　山形県山形市霞城町1-8
Tel：023-645-1111　Fax：023-645-1112
HP：https://www.yamagata-museum.jp/

訃　報

本会の次の方々が逝去されました．謹んで哀悼の意を表します．

名誉会員　佐藤　正（2024年9月15日）

正会員　下西繁義（2023年1月5日）　野田浩司（2023年7月14日）　澤田武美（2023年12月7日）
八木下晃司（2024年1月）　平野昌繁（2024年1月16日）　杉山　明（2024年1月9日）
石賀裕明（2024年3月2日）　石井久夫（2024年4月）　門田真人（2024年6月12日）
田中　保（2024年9月14日）



バラエティー豊かな福島県の地質

主任学芸員　**猪瀬弘瑛**

【博物館の概要】

福島県立博物館は昭和61年（1986）に，県立の総合博物館として開館し，これまで県民の教育，学術及び文化の発展に寄与するため，さまざまな活動を行ってきました．自然分野のほかに，考古・歴史・民俗・美術・保存科学・災害の各分野を担当する学芸員が勤務しています．展示室は，大きく常設展示室と企画展示室に分かれています．常設展示室では，旧石器時代から昭和まで順に福島県の歴史を紹介する総合展示室と，自然・考古・歴史・民俗・美術の各専門分野の視点から福島県について詳しく紹介する分野別展示室からなっています．企画展示室では，1年に4回程度の企画展・特集展（常設展料金で観覧できる期間限定の展示会）を開催しています．常設展示室内でも，小規模な期間限定の展示会として，テーマ展・ポイント展を実施しています．

福島県立博物館では，前述の通り自然分野として学芸員３名が所属していますが，現生動植物等はほとんど展示・収蔵しておらず，地質学に関わる資料を中心に扱っています．自然の分野別展示室の英語名称が『Geology of Fukushima』なのもそのためです．これは，福島大学で植物化石の研究をされていた故鈴木敬治先生の貴重なコレクションを保存するため，歴史系の博物館として構想されていた福島県立博物館に自然分野を加えたことによります．自然分野の登録資料は開館後も寄贈などで増加しており，現在は3万点近くになっています．

なお，福島県立博物館は，県庁所在地の福島市ではなく会津若松市に立地しています．県立美術館は福島市にあることもあり，間違われる方が多いのでご注意ください．

【福島県の地質概要】

福島県は，地形などから東から順に浜通り，中通り，会津の３地域に分かれます．地質についても３地域で特徴が異なっています．

浜通りには，福島県で最も古いカンブリア紀の変成年代を示す松ヶ平変成岩や，福島県で最も古いデボン紀後期の化石を産する合ノ沢層や，アンモナイトやシダ植物化石で知られる相馬中村層群や，フタバサウルス（フタバスズキリュウ）で知られる双葉層群や，古第三系の化石で知られる石城層・浅貝層などの古生代から新生代にかけての地層が分布しています．高温・低圧型の変成岩として有名な阿武隈変成岩も分布しています．幅広い年代の地層がみられる地域です．

中通りには，パレオパラドキシアを産した梁川層や，多くの貝化石を産する久保田層など新生代の地層が主に分布しています．阿武隈山地のペグマタイトも有名です．南部の棚倉町周辺では，棚倉構造線に沿った地形を見ることができます．

会津には，ジュラ紀付加体の堆積物に加え，緑色凝灰岩やカイギュウを産した塩坪層や植物化石を産する大戸層などの新生代の地層が分布しています．明治21年（1888）に噴火した磐梯山も位置しています．

info

福島県立博物館
〒965-0807　福島県会津若松市城東町1－25
TEL 0242-28-6000
https://general-museum.fcs.ed.jp/

【展示室】

地質学に関する展示は，主に分野別展示室で行っています．９割以上の資料は福島県内産です．

入口脇には福島県の地質図を展示しています．時代や成因の多様な岩石が広がっていることが分かります．展示室全体は，時計回りにカンブリア紀から現在にかけての時代順となっています．中央には，フタバサウルスの復元骨格模型を配置しています．当館一番の人気者で，シンボルマークにもなっています．

各時代の大陸配置を再現し，現在の福島県となる当時の岩石の位置を示した地球儀を，令和6年の8月から展示しています．Paleomap projectのScotese先生から元画像の使用許可をいただき，学芸員が自作したものです．大陸移動が分かりやすいというお声をいただいています．

【代表的な展示物】

代表的な展示物を展示順に紹介します．

最初の展示物は，福島県最古の岩石である，松ヶ平変成岩類の緑色片岩です．浜通り北部に位置する相馬地方には比較的広く分布しています．変成が進んでいることから，残

分野別展示室『自然』

地質時代の地球儀

念ながら化石は発見されていません．福島県最古の化石は，同じく相馬地方の合ノ沢層のものです．鱗木のレプトフレウムには，維管束の痕跡も見えます．真野層の腕足類や，立石層の珪化して浮き出ているサンゴ化石も福島県の石炭紀の代表的なものです．浜通り南部に位置するいわき市には，ベルム系高倉山層が分布し，多くの化石が発見されています．三葉虫のエンドプスは小さいながらも，防御姿勢を取った化石を展示しています．

相馬地方には，相馬中村層群が分布しており，ジュラ紀後期から白亜紀前期にかけて，豊富な化石を産します．この地域から産する化石の研究には，相馬中村層群研究会をはじめとする地元の方々の貢献が大きく，そうした方々から寄贈していただいた化石を中心に展示しています．ジュラ紀のシダ植物化石は保存が良く，種類も豊富です．*Subdichotomoceras chisatoi* Sato et Taketani, 2008のホロタイプをはじめ，アンモノイドも人気です．

いわき市から楢葉町にかけては，上部白亜系双葉層群が分布しています．福島県の石に選定されているフタバサウルスが注目されがちですが，相馬中村層群とは時代や保存状態が異なるアンモノイドも見ることができます．アンモノイドの隣の実体顕微鏡では浮遊性有孔虫をご覧になれます．コハクやサメの歯も双葉層群で多産します．

浜通りと中通りの間に位置する阿武隈山地は，阿武隈変成岩やペグマタイトで有名です．阿武隈変成岩のうち，福島県の石に選定されている片麻岩は，特徴的な縞状構造をよく見ることができます．ペグマタイトのコーナーでは，石川地方の水晶（石英），鉄電気石，白雲母，長石，ザクロ石，緑柱石などの代表的な結晶を見ることができます．伊達鉱山のザクロ石も大きく透明感があり，美しいものです．

古第三紀は，石城層のペンギンモドキとも呼ばれるプロトプテルムの化石から始まります．浅貝層の保存の良い貝化石も並んでいます．

新第三紀のコーナーに移ると，会津の金属鉱山から産した黄鉄鉱や黄銅鉱などの鉱物が展示されています．福島県立博物館友の会の化石鉱物探検隊は，こうした鉱物を探すべく活発に活動しています．展示物には，探検隊の隊員たちから寄贈された鉱物も含まれています．

現在の伊達市で化石採集をしていた親子が発見し，当館準備室が関わって発掘したパレオパラドキシアも展示室で目を引く存在です．化石で唯一の福島県天然記念物でもあります．

日本海に近い会津には，いわゆる緑色凝灰岩が広がっています．会津若松市の面川層の緑色凝灰岩からは，アラカワニシキなどの化石を産しますがこれらも緑色を呈します．きれいなこの化石を求めて私も産地へ行ってみましたが，すでに露頭が失われていました．残念ですが，博物館に展示されていることが救いです．なお，福島県立博物館の内壁は，会津に分布する荻野層の緑色凝灰岩で飾られています．中通りに位置する福島市の天王寺層の漣痕の複製も，露頭では風化により見えにくくなっています．

中通りの棚倉町と塙町の中新統久保田層からは，多数の貝化石が産出し，肥料等として採掘されています．当館の化石探しの講座でもお世話になっており，大人から子どもまで楽しませていただいています．特にハタイサルボウは保存が良く，人気です．

会津の只見町の布沢層や西会津町の漆窪層などからは，数は多くありませんが保存の良い魚化石を産出します．布沢層は，多くの植物化石等を産する点でも重要です．

鈴木敬治コレクションから，新第三紀の植物化石も展示しています．鈴木敬治コレクションのごく一部ですが，当館に自然分野ができるきっかけの資料ですので，ぜひ見ていただきたいもののひとつです．

浜通りの広野町の富岡層の貝化石密集層も，ぜひじっくり何の化石が入っているか見ていただければと思います．この有名だった化石産地も消滅していますので，二度と採取できないものです．

第四紀の化石ですが，南相馬市の塚原層からも二枚貝や植物をはじめ，多くの化石が産出しています．また，中通りの植物の球果化石も鈴木敬治コレクションから展示しています．最終氷期のもので，現在は北海道やサハリンのような北方や高山にしか自生しないグイマツやカラマツが含まれています．マニアックな人気があるのは，花粉化石です．秋田県産ではありますが，顕微鏡で覗く体験が楽しいようです．

福島県内には吾妻山，安達太良山，磐梯山，燧ヶ岳，沼沢の5つの火山があります．展示の最後に，このうち，吾妻山，磐梯山，沼沢の火山噴出物を展示しています．現在も地質現象は継続しているということの例として，お客様に解説しています．

なお，総合展示室では，東日本大震災を伝える展示を令和7年4月にオープンするべく準備をしています．福島第一原発事故が大きなテーマにはなりますが，原因となった地震・津波を伝えるよう，津波堆積物の剥ぎ取り標本なども展示していきたいと考えています．

【研究・普及活動】

当館の自然分野の学芸員は，中生代の軟体動物を専門とする猪瀬のほかに，主竜類を専門とする吉田純輝と硬骨魚類の耳石を専門とする土屋祐貴がいます．県立の博物館であることから，それぞれの専門だけでなく地質学全般について扱っています．専門外の分類群の化石や鉱物にも対応しなければならず，館外の方々にご協力をお願いすることも多いです．これを読んでいるみなさんにも相談することがあるかもしれませんが，その際はよろしくお願いいたします．

各自の研究成果を公表後，地元メディアにプレスリリースするとともに速やかにポイント展等で紹介するようにしています．吉田学芸員による恐竜化石の発見等，特に反響が大きそうな内容のときには，記者会見を行っています．そうしたことの積み重ねで，自然分野の存在と福島県の地質の面白さを県民の方々に少しずつ認知されるようになってきました．

講座の様子

普及活動として，体験メニューの開発を積極的に行っています．「アンモナイトの名前をあてよう」は，アンモノイドの分類形質に親しんでいただくことを目的としています．実物のアンモノイドを触りながら，学芸員と一緒に観察した結果から，簡単に分類を楽しんでもらっています．コミュニケーションする中で，アンモナイトといっても1種類ではないのだということに驚く方が多く，展示する際の参考になります．

幼稚園児向けの講座にも取り組んでいます．「柱状節理を観察しよう」「孔雀石で絵の具をつくろう」「白雲母で万華鏡をつくろう」と展開してきました．先日，白雲母で偏光板を使った工作をしたときには，子どもが喜んで「大切にする！」ととても大きな声をあげていました．質問コーナーでは，いろいろな質問が出てきます．石はなぜ硬いの？　石の色の違いは何？　どうやって石はできるの？　などなど．幼稚園児に通じそうなたとえ話を織り交ぜながら，お話しています．

【おわりに】

福島県立博物館は，開館から38年を迎えました．建物そのものは頑丈なつくりで，平成23年東北地方太平洋沖地震でも目立った被害はありませんでした．しかしながら，設備面では老朽化が進んでおり，メインの展示室である総合展示室について閉室せざるを得ない状況になりました（令和７年4月の再開を目指しています）．展示室でご案内する解説員も開館時の半分近くまで減りました．収蔵庫もひっ迫し，受け入れが困難になる分野も出てきました．最初のリニューアル計画ができてから，30年近くになりますが，実現できていません．

博物館を取り巻く状況は厳しくなってきてはいますが，新採用の学芸員も入るなど，明るい材料もあります．バラエティー豊かな福島県の地質を伝え続けられるよう，努力していますので，お近くにいらっしゃった際には，ぜひお立ち寄りください．

CALENDAR

2024.11～

地球科学分野に関する研究会，学会，国際会議，などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆様の情報をお待ちしています．
★印は学会主催，（共）共催，（後）後援，（協）協賛．

2024年
11月　November

国立国会図書館主催フォーラム
「オープンサイエンスを社会につなぐために―国立国会図書館の取組を踏まえて」
（図書館総合展2024）
11月6日（水）13:00～14:30
場所：パシフィコ横浜 アネックスホール（横浜市西区みなとみらい）
参加費無料，定員200名・要事前申込
https://www.libraryfair.jp/forum/2024/1075

○日本地質学会関東支部講演会
「県の石ー東京都の岩石・鉱物・化石ー」
11月10日（日）13:00～16:00
会場：早稲田大学早稲田キャンパス6号館
定員：現地100名（上記教室），オンライン100名
参加費：無料（要事前申込み）
https://geosociety.jp/outline/content0201.html#2024ishi

第39回（2024年）京都賞記念講演会
11月11日（月）13:00～
会場：国立京都国際会館（京都市左京区岩倉）
基礎科学部門　ポール・F・ホフマン（地質学者/ビクトリア大学客員教授）ほか
入場無料，同時通訳，定員1,500名（先着）
https://www.kyotoprize.org/speech/2024

（協）石油技術協会 令和6年度秋季講演会
「低炭素エネルギーシステムの社会実装に向けて～水素・アンモニア～」
11月12日（火）10:30～17:30
場所：東京大学 小柴ホール（ハイブリッド）
参加費：３,000円（石油技術協会会員、賛助会員、協賛団体（所属者）），学生無料
※地質学会の会員は上記金額で参加可能です．
https://www.japt.org/

（協）ポール・ホフマン博士京都賞受賞記念講演（東京・駒場）
11月14日（木）17:00～19:00（開場：16:00）
会場：東京大学駒場キャンパス
21KOMCEE EAST K011（地下）
要事前申込（10/19締切），入場無料
https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfXnioDBhDdeZ-xEowYe0GcaTxpvM7urIR_CidpIPzBSmETkw/viewform

学術会議公開シンポジウム
「海底地質災害と洋上風力開発」
11月14日（木）10:00～18:00
場所：日本学術会議講堂およびオンライン配信
要参加申込
https://www.kiso.co.jp/sssgr/topics/events/entry-1155.html

第63回温泉保護・管理研修会
11月18日（月）～19日（火）
場所：北とぴあ つつじホール（東京都北区王子）
主催：公益財団法人中央温泉研究所
http://www.onken.or.jp/seminar.html

国際ゴンドワナ研究連合（IAGR）2024年総会及び第21回ゴンドワナからアジア国際シンポジウム
11月18日（月）～22日（金）
場所・会場：マレーシア,クチンのWater Front Hotel
参加登録及び発表要旨提出先：iagr2024@curtin.edu.my
問合せ：Prof. Nagarajan Ramasamy
E-mail: nagarajan@curtin.edu.my

原子力発電環境整備機構（NUMO）講演会
地層処分事業の推進と安全コミュニケーションにおける世代を超えた挑戦
11月22日（金）13:00～16:30
Zoom Video Webinarによるオンライン開催
参加無料，定員100名（先着）（申込締切：11月13日（水）13:00）
詳しくは，
https://www.numo.or.jp/topics/202424101113.html

深田研談話会
11月 22日（金）15:00～16:30
誘発地震の実態と応用：フィールドデータ解析から大型試験片による再現実験まで
講師：伊藤 高敏 氏（東北大学）
定員：会場30名・オンライン上限450名（先着順）
参加費無料（要事前申込）
申込締切：11月15日（金）17時締切
https://fukadaken.or.jp/?p=8536

【JST】2025年度ASPIRE日蘭共同研究提案募集に向けたネットワーキングイベント
11月25日（月）～27日（水）
参加対象者：日蘭共同公募「革新的な情報処理技術のための日蘭共同研究」に関心のある研究者
https://www.jst.go.jp/aspire/event/event_aspire2025_nl.html

（後）日本応用地質学会令和6年度技術者倫理講習会
11月27日（水）13:30～17:00
Zoomによるオンライン講習会
定員500名
要事前申込（11月19日締切，先着順）
参加費：応用地質学会会員等：2,000円，非会員6,000円
https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScB-IBULyhmag0TeDVqMBknFBz5ox6pgoSc-qMYrk3fZefkYA/viewform

「環境研究総合推進費」若手研究者による研究成果発表会
主催：環境再生保全機構
11月29日（金）13:30～16:40（オンライン）
参加費無料，要事前申込
https://www.erca.go.jp/suishinhi/kenkyuseika/kenkyuseika_2_r6.html

12月　December

地質学史懇話会
12月21日（土）13:30～17:00
場所：北とぴあ 806号室（東京都北区王子）
八耳俊文：マンハッタン計画と水俣病―戦後20年日本地球化学史
黒田和男：感銘を受けた授業―東中秀雄先生
問い合わせ：矢島道子 pxi02070@nifty.com

2025年
3月　March

海と地球のシンポジウム2024
3月12日（水）～13日（木）
会場：東京大学弥生キャンパス 弥生講堂
発表課題募集締切：2024年12月13日（金）
https://www.jamstec.go.jp/j/pr-event/ocean-and-earth2024/

7月　July

（後）第62回アイソトープ・放射線研究発表会
7月2日（水）～4日（金）
会場 日本科学未来館 ７階 未来館ホールほか（東京・お台場）
発表申込締切：2025年2月28日（金）12時
https://pub.confit.atlas.jp/ja/event/jrias2025

☆関東支部

報告

清澄フィールドキャンプ　実施報告

2024年　8月19日から24日にかけて，京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻地質学鉱物学の先生方の御協力・御支援のもと，関東支部は清澄フィールドキャンプ（地質調査の演習；以下，清澄FCと略記）を共同実施した（参加者学生4名；全員学生会員になった）．現地指導者は，関東支部幹事の方違，加藤．

清澄FCの参加者には，実施約1ヶ月前から，地質学および地質図学演習の課題を与えて，下準備をしてもらった．初日の8月19日，参加者には，京大生が東京大学千葉演習林清澄宿舎に到着する前に，歩測，走向・傾斜の計測，ウルフネットへの投影などを練習してもらった．2日目以降，京大生とともに．日中は七里川およびその支流で野外調査を，夜はルートマップとフィールドノートへの墨入れ・柱状図の作成をしてもらった．参加者は完成するまで寝られない．近くにコンビニのない宿舎でほぼ缶詰状態になっていたが，参加者にとって貴重な体験になったと思う．最終日，参加者には関東支部発行の修了証が手渡された（これまでに修了された方は32名となった）．その後，京大の有志の方々と勝浦海中公園にて黒滝不整合を見学した．

清澄FCは，地質図学演習という科目を受けることができない，あるいは，地質図学演習に基づく地質調査が実践できなかった学生さんに，その機会を与えるものであり，地質学の「真髄」を知る極めて重要な事業の１つと考える．

開催にあたり，京都大学の佐藤活志先生，松岡廣繁先生，成瀬先生から多大なるご支援を賜った．TAの石田昂汰朗氏・辻本　樹氏には現地にてお世話になった．また，東京大学千葉演習林の方々には，宿泊に際しお世話になった．以上の方々に厚く御礼申し上げる．

（関東支部幹事長　**加藤　潔**）

参加者の感想

2024年8月19日から24日にかけて東京大学千葉演習林にて一般社団法人日本地質学会関東支部が主催する清澄フィールドキャンプに参加させて頂いた．私が所属する島根大学総合理工学部地球科学科では学部一年からフィールドに出る機会に恵まれ，地質図学演習といった講義で地質調査の基礎を学んできた．今回はこれまでに学んだことを実践する経験を積みたいと考え参加を決めた．

実習では歩測や走向・傾斜の測り方といった基礎的なことから丁寧に教えて下さった．地図への断層の記入や野帳への鍵層の記載など新たに学ぶことも多かったが，分からないことも京都大学や関東支部の先生，他の参加者の方々に助けられ理解を深めることができた．朝から夕方まで歩き手に入れた一つ一つの情報を夜にルート柱状図を書いて整理する作業の流れはなれないことも多く大変だったが地質調査のおもしろさと奥深さに気づくことのできる良いきっかけとなったと考えている．

京大メンバーと清澄FCメンバーとの集合写真

実習で指導していただいた関東支部の清澄FC現地講師の方々，京都大学理学部地球惑星科学専攻地質学鉱物学教室の皆さんには大変お世話になった．また，東京大学千葉演習林の方々にもすばらしい学習環境を提供していただいた．他の実習参加者も含め多くの方に助けられ実り多いフィールドキャンプに取り組むことができた．厚く御礼申し上げる．

（鳥取大学2年　**伊藤　優**）

私がこの清澄フィールドキャンプに参加するに至ったのは，自分自身の知識不足と，大学生活の中で実習に行く機会があまり多くないことを感じていたためでした．そのため少しでもフィールドに出ることで，自分の眼や知識，調査の仕方や考察の仕方を養うことが私の目標でした．

結果から言うと私の目標は達成できたと思います．初め，フィールドキャンプに行くまでは地質図学を一部添削してもらい，危ういところやわからないところもあったため，その都度メールで教えてもらいながら勉強することで理解していくことができました．

フィールドキャンプでは，集団についていくことが難しく後れをとる場面が多々あったのですが，地質学会の方違さんに教えてもらいながら，追いついた先で加藤さんに地質や地形の説明をしてもらうことでみんなと同じレベルまで理解しながら歩くことができました．京都大学の先生たちもとてもやさしく，一番初めに露頭にて柱状図の書き方がわからずに立ち尽くしていたところを，実際に露頭を見ながら教えていただきました．その後も質問をするとわかりやすく答えてくれました．

いろいろな人に教わりながら勉強をしていく，このような環境で学ぶことができたからこそ私は実力や知識をつけることができたと思っています．このような体験をさせていただいたことに感謝しています．

（日本大学3年　**杉本優月**）

地質調査の様子

清澄宿舎での墨入れ・柱状図作成

清澄FCのメンバー（左から中村侑己氏，杉本優月氏，伊藤　優氏，石原康輝氏；方違重治幹事，加藤　潔幹事）

地質學雑誌

地質学雑誌は，2022年（128巻）からは完全電子化となりました．会員の皆様に，公開されている新しい論文をご紹介します．ぜひJ-STAGE上で本論文を閲覧してください．QRコードからも各原稿にアクセスして頂けます．
https://www.jstage.jst.go.jp/browse/geosoc/-char/ja

新しい論文が公開されています

報告 **天草の姫浦層群は暁新統をふくむのか？**
牛丸 健太郎, 山路 敦
https://doi.org/10.5575/geosoc.2024.0021
The Himenoura Group on Amakusa-Shimoshima Island, northern Ryukyu arc has been assigned to the Upper Cretaceous since the early 20th century based on molluscan fossils. However, zircon fission-track data suggested that the uppermost unit of the group contains a Paleocene succession. This hypothesis has yet to be verified. Here, we report a Campanian radiometric age from a vitric tuff in the uppermost unit of the group. We obtained the U–Pb ages of zircon crystals by laser ablation–inductively coupled plasma–mass spectrometry. The weighted mean age is $80.1 \pm 0.6_{(2\sigma)}$ Ma (MSWD = 0.75, n = 27), which is consistent with the age of fossils in the uppermost unit of the group on neighbouring Amakusa-Kamishima Island, where the stratigraphy of the group has been established.

案内書 **火山噴火と自然、文化との関わり–鳥海山・飛島ジオパーク**
大野 希一
https://doi.org/10.5575/geosoc.2024.0024
鳥海山・飛島ジオパークは，活火山である鳥海火山を中心に，様々な地形地質，自然，文化的な見どころを有する日本ジオパークである．本巡検では，鳥海山・飛島ジオパークの地形地質・自然・文化サイトやビューイングスポットを8か所訪れ，鳥海山・飛島ジオパークのエリアにおける地形地質学的特徴に加え，それらと自然環境及び人間の歴史・文化との関わりを紹介する．庄内砂丘・西浜海岸では，庄内砂丘の地形的な特徴や，植生と人々の歴史との関わりを紹介する．釜磯海岸や元滝伏流水では，湧水と鳥海火山との関わりを見学する．三崎公園では，旧街道の散策を通じて，溶岩流，植生，歴史との関わりを見学する．道の駅「ねむの丘」や蚶満寺，駒留島では，鳥海火山の山体崩壊がつくる地形と歴史的な出来事との関わりを紹介する．最後に鉾立ビジターセンターでは，鳥海火山の形成史の概要や，地殻変動が創り出した地形を展望台から遠望する．

特別寄稿 **先カンブリア時代を踏破する：2024年「京都賞」受賞者Paul F. Hoffman博士の地質学的挑戦**
磯﨑 行雄
https://doi.org/10.5575/geosoc.2024.0030
Paul F. Hoffman博士が2024年度「京都賞」を地質学者として初めて受賞した．同氏の主な研究成果，研究スタイル，そして極めて個性的な人物像を簡単に紹介する．

～卒業記念やイベントなどのグッズにも最適！　好評発売中～

ご好評いただいております，学会オリジナルフィールドノートは，名入れサービスも承ります（有料）。ビニールコーティングの表紙は，水や摩擦・衝撃にも強く野外調査に最適です。ぜひご活用ください。

サイズ：12×19cm.
中：レインガード紙使用．2mm 方眼.
カバー：ハードカバー，ビニールコティング，金箔押し.
色：ラセットブラウン（小豆色）

定価 600円（会員頒価 500円）

学会オリジナルフィールドノート

ご注文・お問い合わせは，学会事務局まで
電話　03-5823-1150　FAX　03-5823-1156　e-mail: main@geosociety.jp

学部学生・院生の方へ【在会会員に限る】

2025 年度からの学生会費の申請について

申請締切：2024 年 12 月 2 日（月）

一般社団法人日本地質学会運営規則により，学部学生･院生は，本人の申請により“学生会員”としての会費が適用されます．下記をよく読んでお手続きください．**なお，過年度に遡っての申請はお受けしません．2025 年度会費から適用とします．**また，**これから入会される方には申請締切はありません．新入会には期日はありませんので，入会時にお手続きください．**

学生会員の会費額は次の通りです．

単年度：5,000 円／ 2 年パック：8,000 円／ 3 年パック：9,000 円

対象者は次の方々となります．

- **2024 度会費にかかる学生会費申請の際，“単年度”会費で申請し，2025 年 3 月末付で学生証の有効期限が切れる方**
- **2024 年度会費にかかる学生会費の申請を忘れた方**
- **大学学部，大学院，高等専門学校の 4 年生以上に在籍する方で，学生証の写しによりその在籍を証明する方**
- **一般会員あるいはシニア会員が社会人大学院生である場合に，学生証の写しによりその在籍を証明する方**

なお，現時点で学部学生・院生の身分の方ならば，どなたでも申請可能です．2025 年 4 月から就職が内定している方の申請も受け付けます（下記，3．参照）．

学生会員となる方は，学会 HP 所定の申請フォームから手続きして下さい．注意点は次の通りです．

1．『学生証の写し』を提出してください

①学生証の写しは初回申請時のみご提出ください．通常の在学期間終了までは再申請する必要はありません．例えば，現在学部 2 年次で申請した場合，2 年間（学部 4 年次まで）は申請が無くても学生会員とします．
②パック制会費の期間中は都度申請する必要はありません．
③指導教員の署名・捺印は必要ありません．
④定収の有無は問いません．日本学術振興会や研究機関・財団，所属大学などからの奨励金制度による研究に対する助成金を受給している学部学生・院生の方も申請可能です．

2．会費の納入方法を選択してください

①学生証の写しを提出する際，単年度会費:5,000 円／年の納入か，パック制会費（2 年パック:8,000 円，3 年パック:9,000 円）か，いずれかの納入方法を選択してください．
②パック制会費は，申請時一括払いに限ります．

3．在学期間中（もしくはパック期間中）に身分の変更があった場合の注意点について

①在学期間中（もしくはパック期間中）に，就職等で一般会員への会員種別変更があれば，速やかに学会へ届け出てください．
②会費はそのまま継続し，会費額の変更はしません．パック制会費の場合は，パック期間が切れた次年度から一般会員の会費を適用します．
③ただし，学術大会への参加等は会員種別に応じた参加費の扱いとなります．

問合せ先：日本地質学会事務局 <main@geosociety.jp>

申請は右記 QR コードから！
忘れずに早めにお手続き下さるよう，お願いいたします．

2025 年度の会費払込について

一般社団法人日本地質学会 運営財政部会

一般社団法人日本地質学会運営規則（以下、運営規則）により 2025 年度の事業年度（会費年度）が始まる前までに納入下さいますようお願いいたします．2025 年 4 月～ 2026 年 3 月の会費額は下記の通りです．

会員資格	2025年4月～2026年3月分会費
正会員（シニア会員・一般会員）	12,000円（※1. 参照）
〃　（学生会員） ※学生証の写しを提出した者に限る	5,000円
＊１：学生会員はパック制度による会費の納入方法を選択することができます．ただし，一括納入のみ． **２年パック８,000円**（2024～2025年度分）／ **３年パック9,000円**（2024～2026年度分） ＊２：学生会員の会費は、過去年度に遡っての申請はお受けしません．	

①自動引き落としを登録されている方の引き落とし日は 12 月 23 日（月）です．

2025 年度分会費の引き落とし日は 12 月 23 日です．請求書ならびに引き落とし通知の発行は省略させていただきますのでご了承ください．これより以前に不足額がある場合には加算され，余剰金がある場合はその分を減額して引き落としとなります．通帳には金額とともに「チシツカイヒ」あるいは「フリカエ」「ＳＭＢＣ」などと表示されますので，必ずご確認ください．

②自動引き落としをご利用ください．

新たに会費の自動引き落としをご希望の方は，本誌巻末（10 月号ニュース誌巻末）の振替依頼書をご提出ください．

一度手続きをしていただきますと，振込みのために金融機関へ出向く必要もありませんし，会費の未納防止にもなります．自動引き落としの申込は随時受付しています．今回（12 月以降に）お申込みいただいた方は，2025 年 6 月の督促請求時に引落させていただきます．

③お振り込みの方

12 月中旬頃までに請求書兼郵便振替用紙をお送りいたします．折り返しご送金下さいますようお願いいたします．

１．在会年数（会費納入年数）に応じた会費減額について

2023 年度から，正会員は当該年度 4 月 1 日時点で “65 歳以上 ” のシニア会員と “65 歳未満 ” の一般会員とに細分しています．

シニア会員と一般会員の方のうち，2024 年度会費まで未納がなく在会 40 年あるいは 50 年（連続年数でなくても合計年数でも可）に達した場合は，2025 年度以降の会費からそれぞれ会費減額を行います．

・在会 40 年以降　11,000 円（1,000 円割引）
・在会 50 年以降　10,000 円（2,000 円割引）

本割引制度は，申請や手続きは不要です．何卒ご承知おきください．

２．除籍対象年数の規則変更について．長期滞納者の会員はご注意下さい．

運営規則の一部改正（2022 年 6 月）により，2023 年度からは除籍対象となる滞納年数が『滞納 4 年度目』から『滞納 3 年度目』に変更となりました．該当する方には個別にご案内することとなりますが，くれぐれもご注意下さい．

運営規則第 7 条（会費）第 4 項（4）

（4）会費支払いの督促を受けつつ，正当な理由なく，かつ，退会届を提出せぬままに会費を滞納した会員は，**滞納 3 年度目**をもって，理事会の議決により会員の資格を喪失させ除籍とする．

会費額についてご不明な点がある場合やその他確認したいことがある場合は，
日本地質学会事務局へお問い合わせ下さい．
（e-mail：main@geosociety.jp ／ FAX：03-5823-1156 ／ TEL：03-5823-1150）

（金融機関用）　　令和　　年　　月　　日

預金口座振替依頼書
自動払込利用申込書（収加）

私は、SMBCファイナンスサービス株式会社から請求された金額を私名義の下記預金口座から預金口座振替によって支払うこととしたいので、預金口座振替規定を確約のうえ依頼します。

収納代行会社	SMBCファイナンスサービス株式会社	振替日（払込日）	6日・23日（金融機関休業日の場合は翌営業日）

（フリガナ） 申込人名		申込人住所	〒 ☎

ゆうちょ銀行以外の銀行またはゆうちょ銀行のどちらか一方に記入して下さい。

お届け印（捨印）
ゆうちょ銀行を除く

ゆうちょ銀行以外の銀行

金融機関コード		支店コード		預金種目（どちらかに○印）	口座番号（右詰めでご記入ください。）
銀行 信用金庫 組合		本店 支店 出張所		1. 普通 2. 当座	
（フリガナ） 口座名義人	法人の場合は、社名、代表者 役名、氏名を省略せずご記入ください。				金融機関お届け印

ゆうちょ銀行

（フリガナ） 口座名義人	法人の場合は、ゆうちょ銀行へお届けの社名、代表者 役名、氏名を省略せずご記入ください。	ゆうちょ銀行お届け印

種目コード	契約種別コード	記号（6桁目がある場合は※欄にご記入下さい）	番号（右詰めでご記入ください。）
1 6 6	3 0	1　　0 ※	

払込先口座番号	00110－5－58830	払込先加入者名	SMBCファイナンスサービス株式会社

ご注意！ 金融機関へのお届け印ですか

〈収納企業使用欄〉

収納企業名	一般社団法人 日本地質学会	料金等の種類	会費等
契約者番号	委託者コード：1 8 4 7 6 0 0 0	顧客コード：0 0 0 0 0	

－預金口座振替規定－　※ゆうちょ銀行払いは除く。

1. 銀行（金庫・組合）に請求書が送付されたときは、私に通知することなく、請求書記載金額を預金口座から引落しのうえ支払ってください。この場合、預金規定または当座勘定規定にかかわらず、預金通帳、同払戻請求書の提出または小切手の提出はしません。
2. 振替日において請求書記載金額が預金口座から払戻すことのできる金額（当座貸越を利用できる範囲内の金額を含む。）をこえるときは、私に通知することなく、請求書を返却してもさしつかえありません。
3. この契約を解約するときは、私から銀行（金庫・組合）に書面により届出ます。尚、この届出がないまま長期間にわたり会社から請求がない等相当の事由があるときは、特に申出をしない限り、銀行（金庫・組合）はこの契約が終了したものとして取扱ってさしつかえありません。
4. この預金口座振替についてかりに紛議が生じても、銀行（金庫・組合）の責めによる場合を除き、銀行（金庫・組合）には迷惑をかけません。

ゆうちょ銀行をご指定の場合は自動払込み規定が適用されます。

金融機関使用欄

（不備返却事由）
1. 預金（貯金）取引なし　3. 印鑑相違
2. 記載事項等相違
　店名、預金種目、口座番号、通帳記号、通帳番号、口座名義
4. その他（　　）

備考

検印	印鑑照合	受付印	

取扱店日券印

（金融機関へのお願い）
この預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書に不備がありましたら、不備返却事由欄の該当項目に○印をつけて速やかに右記不備返却先へご返送ください。

◎書類の流れ　お客様→収納企業→SMBCファイナンスサービス→金融機関

不備返却先
SMBCファイナンスサービス㈱
決済ビジネス業務センター　口座振替依頼書課
〒105-8625 東京都港区新橋1-8-4　SMBC新橋ビル

裏面のりしろ①

キリトリ線

のりしろ①

84円
切手
貼付

101-0032

東京都千代田区岩本町
二丁目八―一五　井桁ビル内
一般社団法人 日本地質学会
御中

オリ線

住所
氏名

オリ線

のりしろ③

のりしろ②

キリトリ線

裏面のりしろ②

裏面のりしろ③

入　会　の　ご　案　内

入会ご希望の方は下記の入会申込書を一般社団法人日本地質学会事務局へお送りください．
入会には正会員1名の紹介が必要です．近くに紹介者となるべき会員がいない場合はその旨お申し出ください．また，初年度の会費は申込書郵送時から時間の間隔をおかずに下記送金先へ速やかにご送金ください．会員としての正式登録は，入会承認後，初年度会費の入金を確認した上で行い，News誌の送付(4月号から)を開始いたします．

申込書郵送先：101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　一般社団法人日本地質学会
学会費送金先：郵便振替口座　00140-8-28067　一般社団法人日本地質学会
ゆうちょ銀行　〇一九(ゼロイチキュウ)店／当座 0028067 ／一般社団法人日本地質学会 ｼﾔ)ﾆﾎﾝﾁｼﾂｶﾞｯｶｲ
会費年額：正会員(一般会員・シニア会員) 12,000円　※1
正会員(学生会員)5,000円/年、2年パック会費額:8000円、3年パック会費額:9000円)　※2
ジュニア会員　0円(年会費不要)　※3

※1:シニア会員は，入会年度の4月1日時点で65歳以上のかたを対象とします(4/2以降に65歳になる方は次年度からシニア会員となります)．
※2:学生会員は，次の2点を守って手続きして下さい．①学生証の写しを提出すること．②パック制会費を希望の場合は一括納入すること．
※3:ジュニア会員は，正会員の権利は有しません．学術大会での発表はジュニアセッションに限定します．

『学生会員』入会希望者

学生証の写しをここへ貼付

“＊”学会記入欄：Official use only

＊会員番号	＊会員種別　☐ 正　会　員（☐ 一般　☐ シニア　☐ 学生） ☐ ジュニア会員

一般社団法人日本地質学会入会申込書　Application form for the Geological Society of Japan

太枠内のみにご記入ください

氏名(ふりがな)　Name in Japanese　　ローマ字表記 family name　　first name

＿＿＿年Year＿＿＿月Mo＿＿＿日Day 生born on　　Sex：☐ 男 Male　☐ 女 Female　Country：

学歴 Academic career：
＿＿＿＿＿学校 High school＿＿＿＿＿年卒業 Year completed
＿＿＿＿＿大学 University ＿＿＿＿＿学部 Faculty ＿＿＿＿年＿＿＿月 卒業(見込み)Year completed
修士 Master:＿＿＿＿＿大学Univ.＿＿＿＿＿研究科Fac. ＿＿＿年＿＿＿月 修了(見込み)Year completed
博士 Master:＿＿＿＿＿大学Univ.＿＿＿＿＿研究科Fac. ＿＿＿年＿＿＿月 修了(見込み)Year completed
※学生証の写しも忘れずに添えて下さい．

自宅住所 Home address：(郵便番号 Zip code　　－　　)
電話 Phone：　　ファックス Fax：

所属機関名称・所属機関住所 Affiliation with address：(郵便番号 Zip code　　－　　)
※郵便物がきちんと届けられるよう，ご記入ください．
電話 Phone：　　ファックス Fax：

e-mail Address：　　@

※e-mail Addressは地質学会からのメルマガ配信用，その他連絡用に登録します．携帯電話各社のe-mail Addressを記入の場合は登録いたしません．ご注意ください．
※所属先(代表)の問い合わせ専用　e-mail Address　は記入しないでください．

連絡先 Correspondence：　☐ 自宅 Home　☐ 所属機関 Office

会員情報について：在会者に限定し，Web版の会員管理システムにて会員情報の検索・閲覧をすることができます．氏名・所属先は掲載必須項目です．下記の項目について**掲載を拒否する項目には ☐ にチェックを付けてください(チェックが無い項目は掲載承諾いただいたものとします)**．

☐ 最終学歴　☐ 所属先学科名・部課名(掲載不可の場合は「〇〇大学〇〇学部」，「㈱△△△△社」までを必須項目として掲載)
☐ 所属先住所　☐ 所属先電話・FAX番号　☐ 自宅住所　☐ 自宅電話・FAX番号　☐ e-mail Address

紹介者名(正会員)　　印
Recommended by (name of member) ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ Signature

(学生のかた)
希望する会費額を選択して下さい．パック制会費選択者は，該当するパック制会費額を一括納入して下さい．

☐ 5,000円(初年度のみ) ／ ☐ 2年パック:8,000円(初年度・次年度) ／ ☐ 3年パック:9,000円(初年度・次年度・次次年度)

☐ 学生会員として入会希望です。 **学生証の写し**を入会申込書に添えて提出します。

専門部会の選択(任意)

現在，下記の14の専門部会があり活動しています．専門部会に参加ご希望の方は登録をお願いします．所属希望の部会を3つまで選択することができます．(該当する項目に〇印を付けて下さい)

1. 地域地質　2. 層序　3. 堆積地質　4. 海洋地質　5. 構造地質　6. 岩石　7. 火山　8. 応用地質
9. 環境地質　10. 情報地質　11. 古生物　12. 第四紀地質　13. 環境変動史　14. 鉱物資源

興味専門分野の選択(任意)　あなたの興味専門分野を教えてください．3つまで選択することができます．(該当する項目に〇印を付けて下さい)

1. 層位　2. 堆積・堆積岩　3. 古生物　4. 構造地質　5. 火山・火山岩　6. 深成岩　7. 変成岩
8. 鉱床地質(金属・非金属)　9. 鉱床　10. 鉱物　11. 燃料地質　12. 地熱　13. 第四紀　14. 環境地質
15. 都市地質　16. 土木地質　17. 土質工学　18. 水文地質　19. 探査地質　20. 土木工学　21. 情報地質
22. 地震地質　23. 海洋地質　24. 地球物理　25. 地球化学　26. 地質年代学　27. 地理　28. 地学教育
29. 考古学　30. その他　40. 地球惑星

(注)ご提供いただいた個人情報は，日本地質学会プライバシーポリシーに基づき適切に取り扱います．

＊受付(　　年　　月　　日)	＊承認(　　年　　月　　日)	＊入金(　　年　　月　　日) 振替・現金・銀行・他	＊送本(　　巻　　号)

地球科学の仕事

あります！

命を守る仕事

豊かな生活を支える仕事

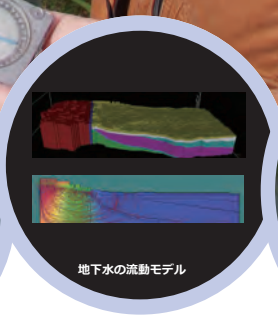
災害を減らす仕事

環境を守る仕事

活火山（桜島）

熊本地震で倒壊した家屋

ボーリング調査


地下水の流動モデル

斜面崩壊

「地質調査」それは 社会 を支える仕事

地質調査は、災害対策、インフラ整備、資源開発、環境アセスメント、など現代社会の基盤を支える技術です。地質関連企業は国内に6,000 社以上あり、そして熱意ある皆さんが地域の安全と社会の発展を支える仕事に就いてくれることを望んでいます。

そしてこの分野に必要不可欠の国家資格が「技術士」です。全国のうちわずか9 校のみが地球・資源分野で JABEE（日本技術者教育認定機構）による認証を受けています。この世界基準の教育を受けると国家資格の「技術士補」を取得できます。その後研鑽を積めば、科学技術を用いた調査分析業務を行うプロフェッショナルなコンサルタントである技術士として活躍できます。

全国で 9 校のみ！

世界基準の教育プログラムと認定され、国家資格が取れ、専門職に強い大学

茨城大学
理学部・地球環境科学コース

富山大学
都市デザイン学部・地球システム科学科

島根大学
総合理工学部・総合理工学科
（JABEE 継続申請準備中）

新潟大学
理学部理学科・地質科学プログラム

東京都立大学
都市環境学部・地理環境学科

日本大学
文理学部・地球科学科

千葉大学
理学部・地球科学科

山口大学
理学部・地球圏システム科学科

本企画に協賛した 8 大学（50 音順）

一般社団法人日本地質学会　地質技術者教育委員会

©一般社団法人日本地質学会　〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　電話03-5823-1150
Fax 03-5823-1156　E-mail：main@geosociety.jp　ホームページ http://www.geosociety.jp